

## 再評価結果（平成22年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課  
担当課長名：深澤 淳志

事業名	旭川・紋別自動車道 一般国道450号 丸瀬布遠軽道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局
起終点	自：北海道紋別郡遠軽町丸瀬布南丸 至：北海道紋別郡遠軽町豊里		延長		18.0km
<b>事業概要</b>					
旭川・紋別自動車道は、北海道縦貫自動車道比布ジャンクションから分岐し、紋別市に至る延長約130kmの一般国道の自動車専用道路である。このうち丸瀬布遠軽道路は、丸瀬布インターチェンジから遠軽豊里インターチェンジに至る延長約18.0kmの事業で、国土・地域ネットワークの構築により、物流効率化の支援や個性ある地域の形成、円滑なモビリティの確保に寄与する道路である。					
H18年度事業化	H1年度都市計画決定 (H1年度変更)	H19年度用地補償着手	H20年度工事着手		
全体事業費	約410億円	事業進捗率	18%	供用済延長	0.0km
計画交通量	11,400～13,200台／日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 2.5 (残事業) 3.1	総費用 (残事業)/(事業全体) 313/385億円 (事業費：276/349億円) 維持管理費： 36/36億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 960/960億円 (走行時間短縮便益： 805/805億円) 走行経費減少便益： 105/105億円 交通事故減少便益： 50/50億円	基準年 平成21年	
<b>感度分析の結果</b>					
残事業について感度分析を実施					
交通量変動 : B/C=3.5 (交通量+10%) B/C=2.6 (交通量-10%)					
事業費変動 : B/C=2.8 (事業費+10%) B/C=3.3 (事業費-10%)					
事業期間変動 : B/C=2.9 (事業期間+2年) B/C=3.5 (事業期間-2年)					
<b>事業の効果等</b>					
地域の特殊性を考慮した便益					
①救急医療（初期治療）へのアクセス向上					
・当該道路の整備による救急医療（初期治療）へのアクセス向上効果【約0.74億円※】					
②余裕時間の短縮による効果					
・当該道路の整備により到着予定時刻に遅刻しないために見込む余裕時間が短縮する効果【約38億円※】					
※は、供用後50年間の便益額として試算した値（参考値）					
定性的な効果					
③拠点都市間のアクセス性向上					
・道北圏の拠点都市である旭川市とオホーツク圏の拠点都市である紋別市、北見市のアクセス向上に寄与。					
④農水産品の流通効率化					
・網走支庁で水揚げされるホタテや、網走支庁で生産される生体牛の流通の効率化が期待される。 (ホタテ漁獲量：北見市 約3.9万t/年、湧別町 約2.5万t/年、佐呂間町 約1.0万t/年)					
⑤観光地へのアクセス性向上					
・年間を通じてオホーツク圏の観光地へのアクセス及び安全性の向上が期待される。 (オホーツク圏の観光入込客数 約800万人/年)					
⑥高次医療施設へのアクセス性向上					
・高度な医療機能を有する旭川市の高次医療施設（旭川赤十字病院等）への救急搬送時間短縮や、患者に負担の少ない安定した搬送が期待される。（遠軽町から旭川市への救急搬送14件/年）					
⑦バス路線の利便性向上					
・札幌・旭川とオホーツク圏を結ぶ都市間バスの移動時間短縮や利用者の快適性向上が期待される。 (27往復便/日)					
⑧広域行政サービスの効率化					
・市町村合併により広域化した地域行政サービスの効率化が見込まれる。					
⑨CO2排出量の削減					
・当該道路の整備により自動車からのCO2排出量10,030(t-CO2/年)の削減が期待される。					

## 関係する地方公共団体等の意見

### 地域から頂いた主な意見等：

網走市をはじめとする3市15町1村の首長等で構成される網走支庁管内総合開発期成会等により早期整備の要望を受けている。

### 知事の意見：

道内の高速交通ネットワークを形成する高規格幹線道路、地域高規格道路など重要な路線であり、交通混雑の解消や物流の効率化を図ることにより、道民生活の向上や経済・社会活動の活性化に寄与することから事業の継続が必要である。

## 事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断するが、事業費が大幅に増加している事業があることから、今後は以下に留意されたい。

1. 調査を充実させ、事業費の積算精度を向上させよう努めること。
2. 事業費の管理を適正に行うとともに、その抑制に努めること。
3. 早期供用開始に向け、事業の促進に努めること。
4. 定性的な効果として、道路整備が観光振興に及ぼす効果について検討すること。

## 事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・旭川・紋別自動車道の平成21年度末供用見込み延長は、約80.5km。
- ・旭川市の旭山動物園の平成18年以降の入場者数は300万人前後で、全国第2位。
- ・平成17年7月に知床が世界自然遺産に登録。
- ・平成17年10月に遠軽町、白滝村、丸瀬布町、生田原町が合併し遠軽町が誕生。

## 事業の進捗状況、残事業の内容等

平成20年度に工事着手して、用地進捗率20%、事業進捗率18%となっている。

## 事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き、早期供用に向けて事業を進める。

## 施設の構造や工法の変更等

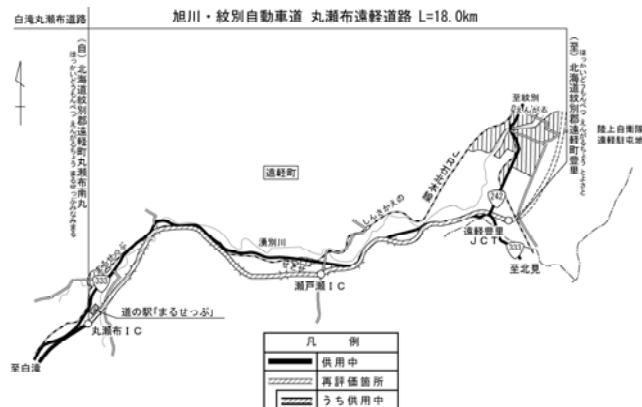
地元協議の結果、周辺の道路利用実態を考慮し事業延長を短縮、詳細調査により判明した硬質な岩盤に対応した掘削工法の見直しや地盤改良の追加など土工を見直し、交差道路を集約し横断函渠など構造物の箇所数を縮減、現地試験を基に法面小段の設置高さを変更し土工量と排水施設を縮減などの変更を行っている。

## 対応方針 事業継続

### 対応方針決定の理由

事業の必要性・重要性は変化なく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。

## 事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。